

# 令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立稲葉特別支援学校 )

## 1 目指す姿

(1) 目指す学校	○児童生徒の教育的ニーズに対応できる高い専門性と信頼性を備え、常に児童生徒を主人公にし ながら進化する特別支援学校	
(2)	育みたい 児童生徒 像	○基本的な生活習慣を身につけている。心身ともに健やかな児童生徒。 ○人と楽しく関わることができ、社会の一員として自立に向けた確かな力を身につけている。 ○卒業後の姿を具体的に描き、その実現に向け、さまざまな経験を通して、主体的に自分の課題に取り 組んでいる。 ○「持続力」と「意欲をもって物事に向かう力」を身につけている。 ○自他を大切にす心情や行動力を身につけている。
	ありたい 教職員像	○公務員としての自覚と高い規範意識を持ち、法令や服務規律を遵守するとともに、互いに適切な助言 をし合える教職員。 ○「子どもたちの未来を育てる使命と誇り」を持ち、仕事を通じ、自身も成長し、共に学び合い感動を分か ち合う教職員。 ○専門性の向上のため自己研鑽に努め、共に学び合い、授業を中心に据えた取組を進める教職員。 ○変化を受け入れ、柔軟で、新しいことにも積極的に挑戦する教職員。 ○「チーム稲葉」として校務運営等に積極的に建設的に参画する教職員。

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を 提供する相手とそこ からの要求・期待	<p>〈児童生徒〉卒業後に社会の一員として各子どもに応じた自立できる確かな力を育ててほしい。</p> <p>〈保護者〉児童生徒にとって、安心安全に学べる場所であってほしい。子どもの教育的ニーズに応じた教育を 実践し、生きる力を伸ばしてほしい。日頃から教職員の資質向上に取り組んでほしい。(障がい理解、 保護者や児童生徒の気持ちの理解)</p> <p>〈センター的機能を必要とする機関〉特別な支援を必要とする子どもたちへの指導について、専門的な支 援をしてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携する うえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈関係機関〉子どもたちや家庭の課題、あるいは子どもたちの進路について、学校と緊密に連携しながら 取り組み、解決を図りたい。</p> <p>〈地域〉特別な支援を必要とする子どもたちへの指導について、専門的・具体的な指導・助言を行って ほしい。</p> <p>地域の中の学校として、地域とのつながりを大切にしてほしい。</p>	<p>〈関係機関〉ネットワークを通じて、子どもや保護者の生活を各機関それぞれの専門性を発揮し、支 えてほしい。</p> <p>卒業後の進路先としてニーズにあった生活環境や職場環境を整備いただきたい。</p> <p>〈地域〉特別な支援を必要とする子どもたちが生涯にわたって暮らしやすい環境になるように、適切な 指導及び必要な支援の充実に取り組んでほしい。</p> <p>本校の子どもたちへの理解と協力をお願いすると共に、本校との連携を図ってほしい。</p>
(3) 前年度の学校 関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器の活用について、どのような活動がどういふ学びに繋がるかという観点で計画されるとよい。</li> <li>「新型コロナウイルス感染症対策のため、授業参観が難しかった」とある。参観方法を模索されてはどうか。</li> <li>防災について、いなば園や地域との合同避難訓練をするのもよい。</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策のため、地元自治会との顔を合わせた交流がストップしたままである。新しい交流のあり方を模索していきたい。</li> <li>保護者アンケートの結果が必ずしも保護者の本音とは限らない。アンケートの設問を工夫してもらってはどうか。</li> <li>「いじめ・体罰に関する実態調査」を年2回学校では実施されているが、発語のない子どもは訴えることができないので、より教員は意識を高く持ってほしい。</li> <li>職員の働き方改革の成果指標で「一人当たりの年間休暇取得日数が昨年度以上」とある。「最低〇日取得する」といった具体的な目標の方が一人ひとりの実行性に繋がるのではないか。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度・3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教育活動に様々な制限がかかり、できていない活動がある。本校卒業後の生活を考えると在学中に活動を実現したい。</li> <li>学校間交流をはじめ外部との交流について、あらためて目的を明確化したい。手段について、対面実施が困難な場合の代替手段も当初から計画しておく必要がある。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止について、これまで行ってきた対策は継続徹底する。家庭とのさらなる連携強化が必須である。</li> <li>職員自身の挨拶の励行と、「さんづけ」呼称について、徹底しきれていない。</li> <li>ICT機器の活用について、令和2年度は機器の導入、令和3年度はとにかく授業で使ってみる、と進めてきた。令和4年度はつきたい力から教育活動の中でICT機器を活用する場面と方法を考える。</li> <li>人と関わることを苦手とする児童生徒が多く、社会性を伸長するための取り組みを、日常的・計画的・意識的に続ける必要がある。</li> <li>児童生徒の障がいの多様化、不登校や問題行動等の児童生徒に係る諸課題の捉え方が変化する一方、そのアプローチや対応が定まらず混乱している状況の中で、また、日々の家庭生活・養育上の課題等を抱える家庭もある中、教育のみならず医療機関や福祉機関等との密接な連携が必要な児童生徒が増加している。積極的に関係機関とつながり、必要な時は専門家を派遣要請し、連携する。</li> <li>高等部卒業と同時に生活の場を確保しなければならない生徒のため、卒業後を見通した、福祉機関等との密接な連携が必要である。</li> <li>「生きる力」を育むため、学校での教育活動全般をキャリア教育の視点で捉え、子どもにとって本校での在学期間中に学ばせることの改善を家庭と連携し進めることが重要である。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業参観がほとんど実施できなかった。実施できなかった時に授業風景を見られるような代替手段を検討する必要がある。また地域住民との交流の機会がなくなっているので、学校を知ってもらう代替手段の検討が必要である。</li> <li>保護者の思いを学校が必ずしも受け止められていない</li> <li>施設・設備の老朽化、職員室の密の解消が課題である。</li> <li>近年、臨時校内研修が増加傾向にある。年間を通じた計画的な校内研修の構築が必要である。</li> <li>危機管理体制の充実について、保護者・地域・近隣施設と連携し、訓練内容を見直すなど、より実践的な取り組みが急務である。</li> <li>教職員の過重労働時間削減。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「社会自立に必要な力」を高める。</li> <li>○自他の心情や命を大切に育てる。</li> <li>○「考える力」を培うとともに、「忍耐力」や「意欲をもって物事に向かう力」を身につける。</li> <li>○健やかな心身を育てる。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員一人ひとりの専門性を向上させる。</li> <li>○特別支援教育のセンター的役割を充実・深化させる。</li> <li>○安心安全な教育環境を整備する。</li> <li>○「チーム稲葉」としての体制・組織づくりを進める。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組

「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
感染防止と教育活動の両立	<p>学校行事等について感染防止対策を行いながら実施する。</p> <p>【活動指標】  <b>(小学部)</b> 日常的にマスク着用をし、着用が難しい児童は、継続的な練習や、フェイスシールドの使用に取り組む。  <b>(中学部)</b> 正しい手洗いや、マスク着用の方法を身につけさせる指導を行う。  <b>(高等部)</b> 対人的な距離感を理解させる指導を行う。</p> <p>【成果指標】  ・教育活動による感染拡大件数 0件</p>		◎
「社会自立に必要な力」を高める。	<p>児童生徒や保護者の思い、地域や関係機関及び産業界等の期待をしっかりと把握し、将来の姿を見据えた小学部から高等部までの一貫したキャリア教育を推進する。またその際は各関係機関と連携し、引き継ぎツール等を活用しながら、一人ひとりに応じた教育指導を進める。</p> <p>【活動指標】  <b>(各学部)</b> キャリア・パスポートを軸とした保護者懇談会を行う。  <b>(進路指導部)</b> 適宜、関係機関と情報共有する。特に高等部3年は個別の移行支援計画を作成し、2月に移行支援会議を行う。  <b>(教務部)</b> キャリア教育プログラムに基づく個別の指導計画の作成。キャリア教育プログラムの見直しを随時行う。</p>		◎

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援に満足している児童生徒及び保護者の割合 80%以上</li> </ul>		
自他の心情や命を大切に育てる心育てる。	<p>自他の命を大切に、社会性を身につけさせ、自尊感情を育みながら具体的な指導を継続して進める。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(小学部) クラスの友だちの前で、自分のことを伝える取り組みを授業の中に組み入れる。教員の言葉がけに対し挨拶や返事ができるように指導する。</p> <p>(中学部) 生徒が自分の感じたことや特技を発表する機会を設ける。</p> <p>(高等部) 自己紹介シートやキャリア・パスポート等を活用して、自己を振り返る機会を持たせる。</p> <p>(人権教育・研修部) 「人権ガイドライン」を教材として授業等で活用し、人権問題に対する正しい認識を高め、命を大切に育てる。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所が言える児童生徒の割合 80%以上。</li> <li>・挨拶ができた児童生徒、小 30%、中 50%、高 80%以上</li> </ul>		◎
「考える力」を培うとともに、「忍耐力」や「意欲をもって物事に向かう力」を身につける。	<p>ICT 機器も活用しながら、児童生徒の「考える力」「忍耐力」「意欲をもって物事に向かう力」を向上させる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(小学部) ICT 機器を活用する方法を工夫したり、活用する教科を増やしたりして、意欲的に授業に参加させる。</p> <p>(中学部) 教室に配置されている appleTV や、プロジェクター、iPad を積極的に活用し、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>(高等部) 授業や行事で、ICT 機器を活用して、生徒の「意欲をもって物事に向かう力」を高める。</p> <p>(図書視聴覚情報) 各学部研修部と連携しながら授業の中でICT(パソコン・ipad・プロジェクターなど)が活用しやすい環境づくりに取り組む。各学部の職員に対して ICT 機器に関する研修を行い、授業や行事で ICT 機器を活用する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での学びで「達成感」を感じている児童生徒の割合 80%以上</li> </ul>		
健やかな心身を育てる。	<p>日々の児童生徒の「生きる力」の基盤となる体力作りを推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(小学部) からだタイムでリミックを中心に基礎体力作りを行う。</p> <p>(中学部) 毎日朝の運動を実施する。</p> <p>(高等部) 朝の運動で、毎日いなば園周を3周走る。</p> <p>(保健安全部) ・各学部とも食に関する授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部、授業などで保健指導を行う。</li> <li>・健康相談を実施し、校医や専門機関との連携をはかり、個々に応じた問題解決に努める。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「運動が楽しい。」と回答する児童生徒の割合 70%以上。</li> <li>・給食における食品ロスの減少。</li> </ul>		
改善課題			

## (2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組

「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員一人ひとりの専門性を向上させる。	<p>年間を通じた計画的で満足度の高い研修会の実施</p> <p>【活動指標】</p> <p>(支援部) はっぴーのーと・パーソナルファイルの活用促進、支援ツールの普及啓発を行い、児童生徒の指導に生かす。年金研修会で卒業後の年金制度について、保護者と共に教職員も学ぶ。地域支援研修会の開催に伴い、専門性の高い地域支援を行う。</p> <p>(人権教育・研修部) ・年間に行う研修を精選し、必要な研修を適切に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科等の専門性を高めるために、学部の枠を外して教科別にグループを作り、年 2 回授業実践を持ち寄り意見交換を行う。</li> </ul>		◎

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部のニーズに応じた研修を、実施する。</li> <li>・本校のニーズに応じた全学で行う全体研修会を年1回以上実施する。</li> </ul> <p><b>(進路指導部)</b>職員・保護者対象進路研修会を行う。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性の向上のための研修を受講した教職員 100%</li> </ul>		
「開かれた学校への展開」	<p>情報発信をすすめるため、ホームページの充実、授業公開、学年・学部懇談会、学校見学会、交流等を実施する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p><b>(支援部)</b>学校見学会、研修会を実施、全員支援会議体制の確立。 「INABA TIMES」の発行</p> <p><b>(学校全体)</b>ホームページのタイムリーな更新による情報提供</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の様子がわかると回答する保護者の割合 80%以上。</li> </ul>		※
安心安全な教育環境を整備する。	<p>児童生徒の危機対応、学校防災の対策等を行う。 また、施設設備の安全確保とともに、教職員の不祥事を根絶することにより、安心安全な教育環境を整備する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p><b>(危機管理全般)</b></p> <p>緊急時対応訓練(小学部) 救急救命講習会、医療的ケア緊急対応訓練 緊急地震速報を活用した抜き打ち型避難訓練、不審者対応訓練 避難訓練(地震、火災)、失踪時対策訓練、交通安全教室 災害時安否確認地区担当者会議、スクールバス避難訓練 発作時の対応講習会等の実施 個人情報の取り扱いの注意喚起、ヒヤリハットの情報共有</p> <p><b>(事務部)</b></p> <p>旧寄宿舎棟から高等部教室へ安心安全な教育環境を整備するための改築を進める。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理・防災について「意識が向上した」と回答する教職員の割合 80%以上。</li> <li>・コンプライアンスに関する目標を設定した教職員 100%。</li> </ul>		◎
「チーム稲葉」としての体制・組織づくりを進める。	<p>教職員一人ひとりが持てる力を発揮し、健康で活力ある「チーム稲葉」としての組織づくりを進める。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上</li> <li>・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100%</li> <li>・放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合 80%以上</li> <li>・学部間人事交流の定着化。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人当たりの月平均時間外労働時間 10時間以下</li> <li>・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人</li> <li>・年360時間を超える時間外労働者の人数 0人</li> <li>・一人当たりの年間休暇取得日数 4月～12月 10日以上</li> </ul>		※
改善課題			

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

学校運営についての改善策